市川のまち 地名の由来

《No.9》

高石神

メンヒル崇拝に起源

木下街道が国道14号線に出る手前、京成電鉄の踏切を越えて右側に入り、石段を上ると、高石神社があります。

神社の北側は京成電鉄を通すときに削られて、数メートルの崖状になっています。また、境内は一面砂地で、国道に出る道はゆるやかに傾斜しています。この地形は明らかに、神社が砂丘の上に建てられていることを示すものです。

高石神社の祭神は明らかではありませんが、神功皇后だと伝えられ、御神体は、剣を帯して馬に乗った軍神の像だといわれています。しかし、高石神の地名から推察すると、御神体は〝石〟ということになるのではないでしょうか。

ところで、東京都葛飾区には京成立石駅がありますが、その近くに祀（まつ）られている「立石」は、原始時代のメンヒル（巨石記念物の一種）で、古くから地元では「立石様」として崇（あが）められてきました。そして、現在、それが地名となって残っているのです。高石神もこの立石と同じく、古い時代に東京湾に面した砂丘の上に建てられたメンヒルでないかと思われます。そして、「高石様」として祭祀（さいし）され、地名となったものです。

また、「江戸名所図会」には、「当社は里見安房守義弘の弟、南総六多喜城主正木内膳亮時総（ないぜんのすけときふさ）の墳墓なりといへり」と記していますが、このことは永禄七年における国府台合戦が、国府台だけでの戦争で終わらず、破れた里見軍を追って、北条軍がこの高石神から中山の台地で再度戦ったことを物語っています。

高石神社の別当寺は、日蓮宗の泰福寺です。この泰福寺には、開山日寂の供養のため、法華経寺の三世日祐が建立した板碑が残っており、市の文化財に指定されています。高石神は、江戸時代、朝比奈氏の所領となり、泰福寺は朝比奈泰勝が建立した寺院で、朝比奈の〝朝〟を取って「朝光山」、泰勝の〝泰〟を取って「泰福寺」としたものです。

（写真は高石神社）

（社会教育指導員・綿貫喜郎）

◇

次回は「河原・妙典」を予定しています。